

60代、70代の連絡手段に差異

～別居家族・親族への連絡は、60代の49%が“文字”、70代の61%が“音声”～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

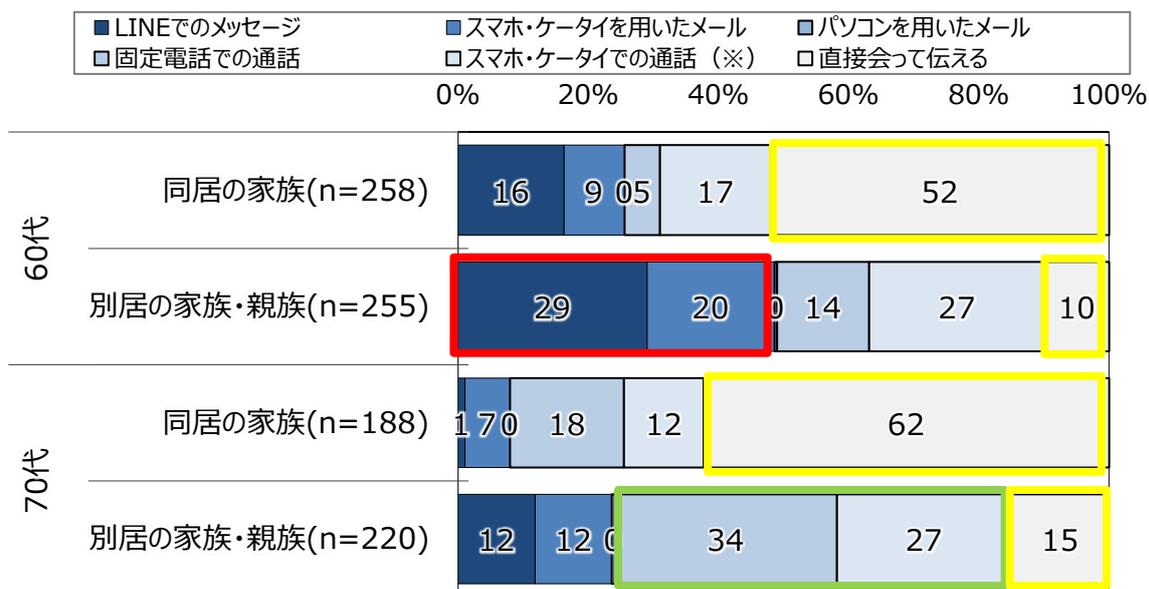
調査結果：①「同居の家族」への連絡手段は、60代・70代共に直接会うが最多
②「別居の家族・親族」への連絡手段は、60代は“文字”が49%、
70代は“音声”が61%

■ 調査結果

1. 相手別の最もよく使う連絡手段

モバイル社会研究所では、2019年1月～2月に行った一般向けモバイル動向調査で、相手別での最もよく使う連絡手段を調査した。今回はその中から、60代、70代の「同居の家族」「別居の家族・親族」に対する連絡手段について報告する。

その結果が、下図である。



※「スマホ・ケータイでの通話」には、LINE や SKYPE 等での通話を含む

図1 相手別の最も使う連絡手段

これからまず判るのが、60代・70代の共通事項として、「同居の家族」か、「別居の家族・親族」で、連絡手段に違いがある事である（図中黄枠）。「同居の家族」場合は、直接会う事が容易にできると考えられ、『直接会って伝える』という連絡手段が、60代で52%、70代で62%と一番多い。他方、「別居の家族・親族」場合は、直接会う機会が少ないと考えられ、『直接会って伝える』という手段の割合は、60代で10%、70代で15%と大きくない。

次に、60代と70代で比較してみたい。ここでは、「別居の家族・親族」における連絡手段に着目する。60代においては、『LINEでのメッセージ』や『スマホ・ケータイを用いたメール』など“文字”による連絡が（図中赤枠）、『固定電話での通話』や『スマホ・ケータイでの通話』などの“音声”による連絡よりも割合が大きく、全体の49%と半数近くを占めている。他方70代では、その関係が逆転し、“音声”（図中緑枠）の割合が“文字”の割合よりも大きく、且つ、全体の過半数の61%を占めている。

以上今回は、相手別の最も使う連絡手段について報告した。

■調査概要

調査名：2019年一般向けモバイル動向調査（訪問留置）

調査時期：2019年1月～2月

調査対象と有効回答数：関東1都6県（東京、神奈川、千葉、埼玉、栃木、茨城、群馬）の
①15～79歳男女（有効回答数700）、②60～79歳男女（有効回答数300）

調査方法：訪問留置

標本抽出法：最新の住民基本台帳の人口構成比（性別、年齢、都市規模）に従う

主な調査項目：スマホ・ケータイの全般的な利用実態など

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com